

会 議 録

1 会議名

令和4年度第2回上越市地産地消推進会議

2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 上越市地産地消推進の店認定審査（新規店舗）（非公開）
- (2) 上越市地産地消推進の店認定審査（更新店舗）（非公開）
- (3) 令和4年度 地産地消推進事業の報告について（公開）
- (4) 令和5年度 地産地消推進事業について（公開）
- (5) その他（公開）

3 開催日時

令和5年3月27日（月）午後2時から午後4時

4 開催場所

上越市春日謙信交流館 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

議事(1)と(2)については、「個人に関する事項」を審議するため非公開としました。

7 出席者氏名（敬称略）

- ・ 委 員：湯沢雅彦、勝島勝美、高橋道代、植村孝弘、小森茂、五十嵐紀文、市村勝彦、
佐藤一、田中美恵子
- ・ 事務局：農林水産部 空部長
農政課 栗和田課長、高橋副課長、北山係長、中里主事

8 発言の内容

（1）開会

【事務局：高橋副課長】

- ・ 配布資料の確認
- ・ 9人の委員が出席しているため、上越市地産地消推進の店認定事業実施要綱第13条第9項の規定により、会議が成立していることを報告。

(2) 会長挨拶

【植村会長】

- ・委員の任期が2年であり、今回の会議が現委員で行う最後の会議になる。
- ・コロナが下火になってきているところもあるが、商品や光熱費の値上げがあり、消費者の財布の紐が固くなっている要因なのではないかと思う。
- ・この会議で小売店や飲食店等が盛り上がる取組を考えていければと思うので、各分野の意見を頂戴したい。

(3) 農林水産部長挨拶

【事務局：空部長】

- ・委員の任期が今年の4月30日で満了となるが、委員の皆様におかれては、プレミアム認定店についてなど、2年間親身になってご審議をいただき感謝申し上げます。
- ・この2年ほどコロナ禍で、飲食も含めて、なかなか厳しい環境の中での地産地消の推進だったが、ようやく少し先が見えてきており、またこれから取組を進めていきたい。
- ・令和5年度は、上越市にとって一つの節目であり、昨年12月に「暮らしやすく、希望あふれるまち 上越」をキーワードとし、令和5年度から令和12年度の8年間の先行きを見通した上越市第7次総合計画を策定した。
- ・その中で農林水産業については、「農林水産業の価値と魅力向上」という項目を設け、上越にとって、「食」が一つの魅力であることを改めて発信していくこととしている。今年度からふるさと納税の返礼品に上越産品を選出するなど、上越の食の魅力を発信していきやすい環境ができてきている。
- ・地産地消の取組は、ますます必要になってくると思っている。その理由は、ウクライナ情勢を受けて、食料の安全保障の面から食に対する関心が非常に高くなってきている。いかに自分たちの地域で食料を安心して確保できるかということにより意識を高く持って取り組んでいかなければならない。日本において、米は自給率100%だが、他の食料については自給できていないところもあるため、さらに地場産物を皆で使っていく取組が必要になってくる。
- ・環境面でも、食料の輸送にかかる二酸化炭素の排出を減らす取組が、これからさらに必要になると思う。来年度からトラックの運転手の働き方改革で、長距離輸送ができなくなることから、さらに輸送コストが上がってくる。そうになると、遠くから持ってくるほ

ど輸送料が高くなるため、地域の中で食料を使っていくことが必要になってくる。

- ・社会的な状況変化もあるが、これらを意識しながら、地産地消について引き続き取り組んでいきたい。本日の会議において、様々な課題に忌憚のないご意見をいただきたい。

【事務局：高橋副課長】

- ・本日の会議録は、公開部分のみ、後日市のホームページで公開されるので、あらかじめご承知おきいただきたい。
- ・それでは議事に入る。これより先は、上越市地産地消推進の店認定事業実施要綱第 13 条第 8 項により、会長が議長となると定められているため、会長から議事運営をお願いする。

(4) 議事

- ① 上越市地産地消推進の店認定審査（新規店舗）（非公開）
- ② 上越市地産地消推進の店認定審査（更新店舗）（非公開）
- ③ 令和 4 年度 地産地消推進事業の報告について（公開）

【植村会長】

- ・「3（3）令和 4 年度 地産地消推進事業の報告について」、事務局から説明願いたい。

【事務局：北山係長】

- ・資料No.6 に基づき説明（説明省略）

【植村会長】

- ・事務局の説明に対して各委員からご意見、ご質問等はあるか。

【佐藤委員】

- ・地産地消推進キャンペーンについて、商工会の各キャンペーンなどがあり、分かりやすい内容のものがいいといつも思っている。例えば、上越市の食育推進キャラクターのもぐもぐジョッピーを利用し「ジョッピーキャンペーン」という名前にするなど、それくらい分かりやすいものがいい。これであれば、もぐもぐジョッピーは上越市の食育推進キャラクターだからその関係のものだと分かる。是非市長に着ぐるみを着てPRしていただきたい。
- ・7つの小中学校に講師として出向き、刺身を造ってきたが、生徒たちがとても食べたがっていた。なんとか刺身でなくても刺身のようなものを給食で出せば生徒たちもとても喜ぶと思うので、是非検討してもらいたい。

【事務局：空部長】

- ・どうすれば食育や地産地消についてさらに広めることができるかということで、もぐもぐジョッピーの着ぐるみの作製について内部で検討したことがある。興味を持ってもらうきっかけづくりは大切なことなので、今回の声を受けてもう一度検討してみたい。

【佐藤委員】

- ・子どもたちが上越の魚に興味を持っているので、その上越の魚を食べたいという気持ちに何かもうひと押し欲しい。

【勝島委員】

- ・釣った魚をさばいてほしいと今日も電話があり、私の店では三枚おろしまでしている。刺身まで造ると、アニサキスの問題があり、食中毒が発生した場合、店が責任を負わないといけなくなる。
- ・稚魚を持ってくる人もいるが、大人になるまで稚魚は放しておかなければならない。基本を教える場所がない。

【事務局：空部長】

- ・以前、漁協の方が何かしたいという気持ちはあるが、手が足りないとおっしゃっていた。スーパーに出せないものや季節的に多く揚がってしまったものを上手く地域の人に食べてもらうような活動ができると、食品ロス削減にもつながっていいと思う。せっかく近くに海がある環境なので何か協力できたらと思う。こういったことに関心がある人で集まることができればと思っているので、引き続き議論を深めさせてもらう。

【植村会長】

- ・地産地消推進キャンペーンについて、他にご意見はあるか。

【勝島委員】

- ・私の店も毎年キャンペーンに参加しているが、以前、スタンプを3つ集めるという条件について、これは1店舗だけでよいのか、3店舗別の店のスタンプが必要なのかという問合せがあった。また、当たらないから来年はやらないという意見もあった。

【事務局：北山係長】

- ・令和3年度は、複数店舗を回ってスタンプを集めると金額の大きい参加店舗共通商品券に応募できることにしたが、仕組みが分かりづらく、応募件数も少なかった。

【事務局：空部長】

- ・今年度は分かりやすい応募条件だったが、複数店舗回る仕組みはなかったので今後検討

したい。

【五十嵐委員】

- ・応募件数を増やしたいなら、簡単な応募条件にすればいい。しかし、当選確率は下がる。
- ・やってみないと分からない部分があるので、色々なパターンをやってみればいいと思う。周知をするには予算が必要だが、やっていく中で定着していくこともある。

【事務局：空部長】

- ・周知の方法として、もう少し効果的な場所にパンフレットを置き、色々な人に見てもらえる機会を考えた方がいいと思っている。置いてあっても気付かない人がいたり、実際にお店に入ったらキャンペーンをやっていたという場面もあつたりするので、キャンペーン終了後に、成果や課題、注意点を参加店舗に共有してさらに周知できるようにしていきたい。

【五十嵐委員】

- ・店に入ってキャンペーンに気付く人は多いと思う。参加店舗が増えれば周知も充実する。
- ・プレミアム認定店の中間報告はとてもいいと思うが、資料No.6（別紙3）のプレミアム認定店の取組に関するグラフのデータについて、無回答とはどういうことか。

【事務局：北山係長】

- ・その項目だけ回答されていなかった。

【五十嵐委員】

- ・回答は100%でいいと思う。

【事務局：北山係長】

- ・また追って聞き取りをして集計したい。

【五十嵐委員】

- ・集計は手間であるか。

【事務局：北山係長】

- ・月末に調査するが、実際、その月の分を提出し忘れてしまい、2か月分まとめて出される店もあるので、前月分を覚えておらず、無回答になってしまったところはあったかと思う。今後は注意して調査したい。

【植村会長】

- ・事務局においては、本日委員の皆様からいただいた意見を参考に、今年度の反省や改善点を令和5年度の事業につなげていただきたい。

④ 令和5年度 地産地消推進事業について（公開）

【植村会長】

- ・「3（4）令和5年度 地産地消推進事業について」、事務局から説明願いたい。

【事務局：北山係長】

- ・資料No.7に基づき説明（説明省略）

【植村会長】

- ・事務局の説明に対して各委員からご意見、ご質問等はあるか。

【事務局：北山係長】

- ・プレミアム認定店を今後どのような形で募集、認定していくか、ご意見を伺いたい。

【事務局：栗和田課長】

- ・通常の地産地消推進の店は随時募集しているが、プレミアム認定店は何年かに1度の募集にするのか、更新認定とあわせて新規に募集する形がいいのか、ご意見をいただきたい。
- ・事務局としても、あまり頻繁に募集するより、ある程度基準を維持して上越を代表した店として、訪れた方にとっても、一定程度特別感があるような店を認定したい。増えすぎてしまっても、プレミアム感が無くなってしまうので、それも含めてご意見をいただきたい。

【湯沢委員】

- ・例えば、現在の認定店が認定から2年経過した後に再審査すると同時に新規募集し、新しく認定される店と認定から外れる店があってもいいと思う。

【事務局：空部長】

- ・プレミアム認定店事業は始まったばかりで、認定のメリットや効果もまだ未知数のところもあり、市も店舗も手探り状態である。最初は様子を見て、2年に1回認定更新のタイミングで募集し、その後期間を調整するのもいいかと思う。

【植村会長】

- ・今の事務局の意見のように進めていくこととしていいか。

【全委員】

- ・異議なし

【植村会長】

- ・地産地消推進の店認定ロゴマークについてはどうか。

【湯沢委員】

- ・飲食店としては、キャッシュレス決済のステッカーなど、入口に貼らなければならないものがとても多い。あまり増やしたくないというのが正直なところである。

【事務局：空部長】

- ・SNSでの情報発信のときに、ただ言葉で「上越市地産地消」と言っても味気ないので、ロゴがあると目に留まりやすいのではないかと考えている。
- ・現段階では電子媒体を考えているが、シールについてはどうするか。

【事務局：北山係長】

- ・店舗から希望があればシールも作成したい。
- ・現在、地産地消推進の店に交付しているのぼり旗のデザインのシールを独自に作って商品に貼っている認定店があるが、公式ではないので、できれば公式のものを使って統一したい。のぼり旗にも紺色のものと緑色のものがあってそれぞれデザインが異なるため、新たにロゴマークのデザインを作成すると三者三様になってしまうため、できればのぼり旗のデザインを基調としたものがないのではないかと考えている。

【五十嵐委員】

- ・電子マークは賛成で使いたいと思う。しかし、デザイン性がないものは好ましくない。

【事務局：北山係長】

- ・事務局の案だが、デザインを決めるに当たり、今年の6月に開催する食育実践セミナーでデザイン案を募集しようと考えている。

【事務局：高橋副課長】

- ・小学生などに食育に興味を持ってもらうことを目的として、地産地消推進の店のロゴマークを自分たちで書いてみることを検討している。それが全てというわけではなく、色々な方々の意見をいただきながら作成したい。

【五十嵐委員】

- ・画像の複製対策も必要になってくると思う。認定店でなくなった場合にも使うことができてしまう。

【湯沢委員】

- ・新潟市のロゴマークはおしゃれである。

【事務局：空部長】

- ・作るプロセスでも食育や地産地消に興味を持ってもらいたい。

【植村会長】

- ・地産地消推進キャンペーンについてはどうか。

【事務局：栗和田課長】

- ・キャンペーンの時期について、店舗の参加のしやすさや対象商品の食材を絞ることなど、意見をお伺いしたい。

【湯沢委員】

- ・食材を絞って、例えば、9月には底引き網漁が解禁になるので「地魚を食べようキャンペーン」などはどうか。

【勝島委員】

- ・魚屋は参加できるが他の店は厳しいかもしれない。

【植村会長】

- ・夏は野菜が採れるが、他のキャンペーンと重なる恐れがある。

【事務局：空部長】

- ・令和4年産の上越産コシヒカリが食味ランキングで特Aという最高評価をいただいた。今回、全国152の産地がある中で、特Aをとったのが40産地であり、上越市は10年連続で獲得できた。10年連続というのは、全国152産地のうち、6産地しかない。
- ・市としては、このおいしい米が採れる産地であることをもっとPRしていきたいところもあるので、地産地消推進キャンペーンも新米プラス〇〇という風に対象商品を設定してもいい。

【植村会長】

- ・そうするとキャンペーンの時期は10月になる。

【事務局：空部長】

- ・新米ができる時期にあわせてキャンペーンを行うのが上越らしいと思う。
- ・それとも、他に時期を絞るのがいいのか意見を頂戴したい。

【勝島委員】

- ・キャンペーンの期間を長くすることはできないのか。

【事務局：北山係長】

- ・前に2か月開催したときに期間が長いという意見があり、それを受けて1か月の期間にしたら短いという意見があったので、令和3年度から1か月半の開催としている。

【事務局：空部長】

- ・周知はもう少し力を入れてやりたい。10月には市でイベントを開催するので、そのタイミングで配布することもしたい。

【勝島委員】

- ・例えば、新米に合うおかずや料理という対象商品にしたとして、各店舗でポップを作成してPRすればいい。市がそこまで全てやらなくてもいい。

【事務局：空部長】

- ・参加店舗に対して、お米を切り口にしてPRしてはどうかという風に統一的にアドバイスすることなどは考えたい。

【五十嵐委員】

- ・毎年同じ時期に開催し、この時期に毎年あるとお馴染みになる方がいいかもしれない。

【事務局：北山係長】

- ・キャンペーンは平成27年から実施しているが、毎年試行錯誤しており、時期を変えたり、上越野菜や魚、発酵食品など、テーマ食材を変えたりしていたが、その結果、定着しないということもあるかもしれない。ここ何年かは店が推薦する地場産食材をテーマとしており、応募者アンケートでは、毎年キャンペーンを楽しみにしているというご意見もある。

【植村会長】

- ・本日、委員の皆様からいただいた意見を参考にして令和5年度の事業を進めていただきたい。
- ・各委員から何か情報提供はあるか。

【佐藤委員】

- ・地産地消推進の店のアプリが必要になってくると思う。アプリがあれば、ある程度の問題が解決すると思うし、他の課がやっていないところだと思うので、農政課が先にやってみるのはどうか。

【事務局：栗和田課長】

- ・検討させていただきたい。

【田中委員】

- ・テレビでよく「国産国消」という宣伝をしているが、市では、「地産地消」で地域を盛り上げてくれていて、国の言っている意味が解決できなかったが、どちらが先なのか。

テレビの力はとても大きく、漢字を覚えてたての子どもたちが見たときに、それをどう思うのかも気になる。

【植村会長】

- ・「国産国消」はJAグループが言っていることで、基本はやはり「地産地消」だと思う。地産地消が一番にあり、かつ、現在、海外から食材が入ってきている中で、日本で食べるものは日本で作る、という考え方である。

【事務局：空部長】

- ・観光客の方にとって、その土地ならではのものを食べるのが旅行の一つの目的としてあり、台湾の観光客は特にそれを目的に日本へ来る方が多い。地産地消は基本的に地元の問題だが、観光客にとっても一つの魅力になるのではないかと思う。インバウンドのお客さんを地産地消推進の店に取り込むことも考えていかなければならないと思う。

【湯沢委員】

- ・先日、振興局が開催した宮城県から講師を招いたインバウンドのセミナーに参加してきたが、上越観光コンベンション協会の方が、呆れたことに紹介する市内の店がないと言っていた。
- ・講師の方のお話で、仙台にインバウンドの方が来たら何を食べさせるかというとき皆牛タンと答えるが、海外の人は牛タンを食べず、その代わりにおいしい地場野菜を食べさせたと言っていた。

【事務局：空部長】

- ・コロナも少し落ち着いてきて、飲食に呼べる時期になってきたので、また色々とアドバイスをいただきたい。

【植村会長】

- ・これで議事を終了する。今ほど委員の皆様から発言のあった貴重なご意見は、事務局で今後の地産地消推進事業に反映していただくようお願いしたい。それでは、進行を事務局にお返しする。

⑤その他

【事務局：高橋副課長】

- ・各委員から何か情報提供はあるか。

【全委員】

- ・なし

(6) 閉会

【事務局：高橋副課長】

- ・事務局から一点、連絡をさせていただく。本会議委員の皆様の任期が今年の4月30日で2年間の任期満了を迎える。次期委員の選考に当たっては、改めて関係機関の皆様にご案内させていただくので、ご協力をお願いしたい。現委員の皆様におかれましては、任期まで引き続きお願いしたい。
- ・市の人事異動に伴い、担当職員の異動があった。新年度は新体制での運営となるため、よろしくをお願いしたい。
- ・以上で、第2回上越市地産地消推進会議を終了する。

9 問合せ先

農林水産部農政課

TEL：025-520-5747（直通）

E-mail：nousei@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。